

E B P M 調 書

事業名	防災学習センター管理運営費（P経費）	課・担当	危機管理・企画担当	担当者（内線）	
E B P Mによる検証（ロジックモデル）					
①将来像 （目指す姿）	首都直下地震等の本県で起こりうる大規模災害で生命を守るためには、災害が起こる前の平常時から、防災・減災対策を学ぶことにより、意識を高め、備えをしておくことが重要である。 防災学習センターを県民の防災学習の拠点施設として運営し、県民に対して日頃からの備えや災害発生時の対処能力に関する学習の機会及び情報を提供することで、県民一人ひとりの自主的な災害対応力を高めることを目指す。	③課題 （将来像と現状との差についての分析）	これまで全国各地で発生した災害の経験から、大規模災害発生時における行政の支援には限界があることが明らかになっており、被害を最小化するためには、県民一人ひとりの日ごろの備えや適切な避難行動が欠かせない。 防災への意識はあっても行動に移せていない人が多いことから、当事者意識及び災害対応の経験値を向上させ、きっかけを提供することで行動を後押しする必要がある。		
②現状	国民や県民に関する調査では、 ・今後地震が発生した時の不安がある方が約9割 ・飲料水・食料3日分以上の備蓄をしていない方が約6割 ・備蓄をしていない理由は面倒であるが約4割 となっており、防災に関する意識はあっても行動に移せていない				
④投入 （インプット＝予算）	⑤事業活動 （アクティビティ）	⑥事業実績 （アウトプット）	⑦事業実績から得られる成果（主語「県民等」） （アウトカム）		
予算額 82,209 千円 一般財源 81,667 千円	【現在の取組】 ・災害について学べる施設の運営 ・イベントの実施 【今後の取組】 ・利用者数の増加を図るため、団体客、個人客に分けた利用増加の取組を行う。 ・学習内容の充実を図るための取組を行う。	【現在の取組】 ・地震、煙、消火等、各体験施設による体験 ・災害に関する展示 ・液化化実験、水害ジオラマ等のイベント 【今後の取組】 (1) 利用者増 ①団体客 ・市町村教育委員会への社会科見学利用の働きかけ ・市町村を通じて来館の呼びかけ ・地域防災サポート企業（約3,000社）に対してセンター利用案内を送付 ②個人客 ・SNS（XやInstagram）を活用したイベントや企画展の告知を行う ・親子連れ利用の増加 ・シニア層利用の増加 (2) 学習内容の充実 ①ターゲットに応じた学習内容の充実 ②激甚化する浸水害に対応する新たな体験項目の導入 ③リーダーの養成	直接成果 利用者数の増加 個人利用 36,000人 団体利用 36,000人 計 72,000人	中間成果 ①利用者アンケート 災害への備えを行う予定 95% ②リピーターへのアンケート 自主的な備えを実施した 70%	最終成果（将来像） 県民一人ひとりの自主的な災害対応力の向上

⑧事業実績（アウトプット）が成果（アウトカム）に結び付くことを示すロジック及び根拠

(1) 利用者増

・市町村教育委員会への社会科見学利用の働きかけ、市町村を通じて来館の呼びかけ、地域防災サポート企業（約3,000社）に対してセンター利用案内を送付する等、工夫し利用者数を増やすことにより一層多くの県民に災害対応能力の向上を図る。

(2) 学習内容の充実

・地震、煙、消火等、各体験施設による体験、災害に関する展示、液状化実験、水害ジオラマ等のイベントに加え、ターゲットに応じた学習内容の充実、激甚化する浸水害に対応する新たな体験項目の導入、リーダーの養成を行うことにより、学習内容を充実させ、より来館者の災害対応能力の向上を図る。

⑨指標	R 6	R 7	R 8	R 9	⑩関連する5か年計画の主な取組等	
年間利用者数（人）	55,000	72,000	72,000	72,000	No. 分野別施策名	1 危機管理・防災体制の再構築
	※現在の指定管理期間は令和7年度まで。				主な取組	各家庭における水、食料、携帯トイレの備蓄・家具の固定など自助の啓発強化
	令和8年度以降は指定管理者と再構築する。					

事業手法に係る自己検証			
県費投入の 必要性	検証項目	評価	評価に関する説明
	事業目的が730万県民や社会ニーズを的確に反映しているか。	○	令和5年度県政世論調査では「災害から県民をまもる」が第1位 また、令和5年度県民満足度アンケートでも「災害・危機に強い埼玉の構築」が第2位となっている。
	市町村、民間等に委ねることができない事業か。	○	知識の習得と体験をすることが重要であるが、地震、煙、消火等の各体験施設を総合的に有する施設を各市町村が用意することは困難。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。 政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	県民一人ひとりの自主的な災害対応力の向上については、知識の習得と体験をすることが重要である。
事業の 効率性	一般競争入札、指名競争入札、プロポーザル方式による契約のうち、一者応札となったものではないか。 競争性のない随意契約となったものはないか。	—	
	受益者負担は適切に設定されているか	○	県民の命を守ることは、公益性が非常に高いため、受益者に負担を求めることは好ましくない。
	使途が事業目的達成にあたり必要なものに限定されているか。	○	災害対応に係る知識の習得と体験をすることが県民一人ひとりの自主的な災害対応力の向上につながるので、必要なものに限定されていると言える。
	不用率が大きい場合、その理由は適切か。	—	
	既存事業との重複はないか。 国、県、市町村で同様な事業を実施し二重行政となっていないか。	○	一部の市町村では防災施設を所有しているものの、地震、煙、消火等の各体験施設を総合的には有していない。
	コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	民間企業や大学等との連携を行い、コストがかからない方法でイベント等の実施を行っている。
事業の 有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	体験や展示等の見せ方等を工夫し、各取組により来館者を増やしていくことは、「県民一人ひとりの自主的な災害対応力の向上」という成果目標に見合っている。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が感ぜられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	県民一人ひとりの自主的な災害対応力の向上については、施設の展示物、体験施設を回り、知識の習得と体験をすることが重要である。
	活動実績は見込に見合ったものであるか。	○	見合っている。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	基本的には、来館者は一通りの展示物の閲覧、施設の体験することとしており、十分に活用されている。

総合評価	A
------	---

関連する事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。（役割分担の具体的な内容を各事業の右欄に記載）			
関連事業	部局・課名	事業名	役割分担の内容

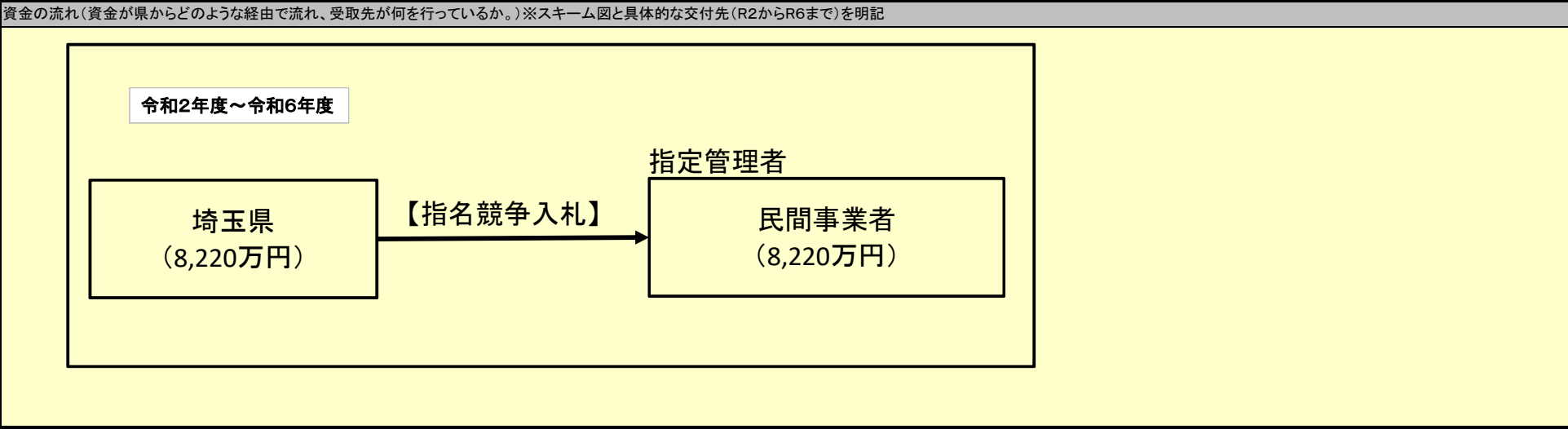
施策全体のロジックモデルフローチャート

[illegible]

※ 必要に応じて適宜、行を追加してください。

EBPM調書(有識者会議様式)

予算執行状況		当初予算額		補正予算額		最終現計予算額		執行額 (決算額)	執行率
		事業費	(うち一財)	事業費	(うち一財)	事業費	(うち一財)		
令和6年度	防災学習センター管理運営費	82,209	81,667			82,209	81,667		0.0%
令和5年度	防災学習センター管理運営費	83,914	83,872			83,914	83,872	80,134	95.5%
令和4年度	防災学習センター管理運営費	80,201	80,159			80,201	80,159	80,201	100.0%
令和3年度	防災学習センター管理運営費	80,201	80,159			80,201	80,159	80,201	100.0%
令和2年度	防災学習センター管理運営費	79,914	79,872			79,914	79,872	79,914	100.0%



E B P M 調 査

事業名	伊豆潮風館管理運営委託費（指定管理者）	課・担当	障害者福祉推進課・総務・計画・団体担当	担当者（内線）	
-----	---------------------	------	---------------------	---------	--

EBPMによる検証（ロジックモデル）					
①将来像 （目指す姿）	障害のある方も障害のない方と同じように、自らの意思で選択・決定しながら、気兼ねなく旅行等の余暇活動を楽しむことができることにより、生活の質が向上し、自分らしい生活を送れている。	③課題 （将来像と現状との差についての分析）	■社会における障害理解は徐々に進んでいるが、民間宿泊施設ではハード面・ソフト面で様々な障害特性のある方を受け入れられる環境が整備されておらず、障害者施設であり宿泊施設でもある伊豆潮風館が果たす役割は大きく、引き続き、運営を継続していく必要がある。		
②現状	■社会における障害理解は徐々に進んでいるものの、バリアの除去は十分に進んでいるとは言えない。 ・バリアフリー法における宿泊施設の車椅子使用者用客室の設置義務は極めて限定的である（客室数50室以上、客室数の1%以上、新築・増改築のみ）。 ・障害者差別解消法において民間事業者の合理的配慮提供が義務化されたが、その前提となる環境の整備は努力義務のままである。 ■障害者の旅行ニーズ（旅行する条件）は以下のとおり。（ユニバーサルツーリズムに関する調査（観光庁令和4年度）） 観光地や宿泊施設等までの移動のしやすさ（41.4%）、受入施設のソフト面（障害理解や配慮）のバリアフリー対応（25.6%）、施設等のバリアフリー情報（22.0%）、受入施設のハード面でのバリアフリー対応（15.5%） ■伊豆潮風館は身体障害者福祉法に規定する身体障害者社会参加支援施設（障害者更生センター）として、障害者やその家族に宿泊やレクリエーションの機会を提供している。		[ユニバーサルツーリズムに関する調査（観光庁・令和4年度）] ・宿泊時の不便や困難の例【障害者向け】 風呂…入浴時の介助が必要、風呂までや風呂の中の移動 周囲への配慮…大声を出す、隣の部屋に迷惑がかかる、備品を壊すか心配 ・宿泊施設等に望むバリアフリー化【障害者向け】 スタッフの思いやりや気遣い（35.9%）、トイレ（29.5%）、客室（23.7%） ・バリアフリーに関する教育訓練を実施【宿泊施設向け】 実施している（25.3%）、実施していない（74.7%） ・ソフト面のバリアフリー化における課題【宿泊施設向け】 人材不足（69.0%）、資金的余裕なし（52.5%） [伊豆潮風館利用者アンケート（指定管理者・令和5年度）] ・この施設を選んだ理由 障害者施設だから（30.7%）、価格（23.1%）、前回利用が良好だった（17.8%）		

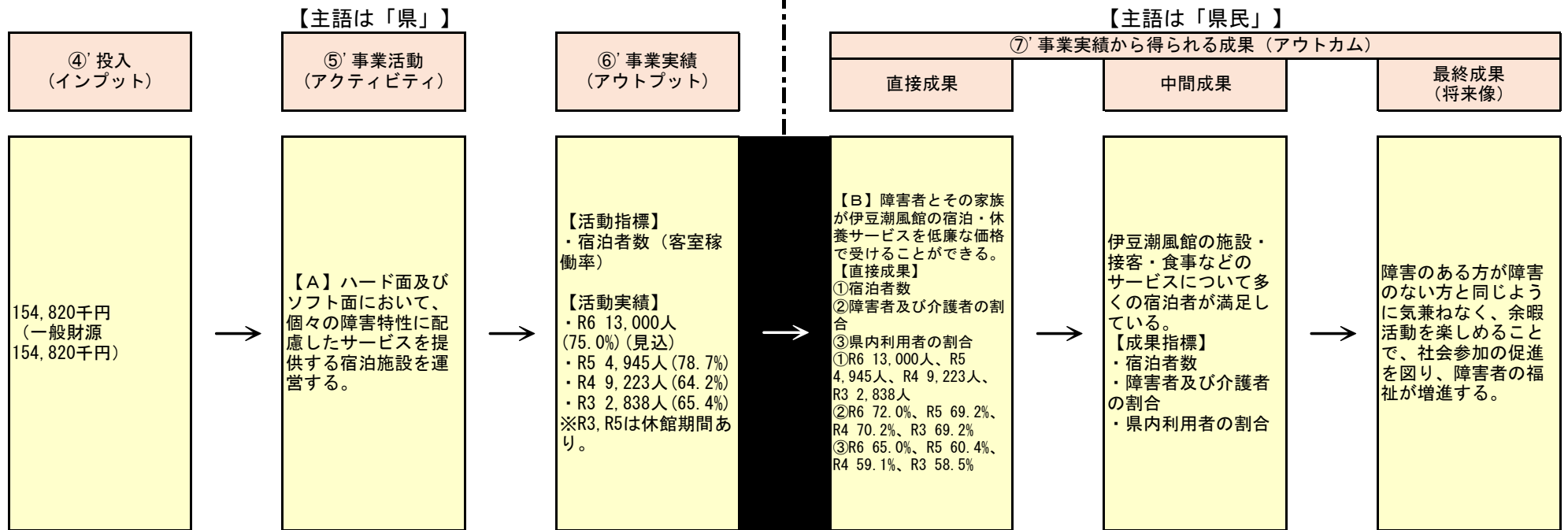
④投入 （インプット＝予算）	⑤事業活動 （アクティビティ）	⑥事業実績 （アウトプット）	⑦事業実績から得られる成果（主語「県民等」） （アウトカム）		
予算額 154,820 千円 一般財源 154,820 千円	ハード面及びソフト面において、個々の障害特性に配慮したサービスを提供する宿泊施設を運営する。	【活動指標】 ・宿泊者数（客室稼働率） 【活動実績】 ・R6 13,000人（75.0%）（見込） ・R5 4,945人（78.7%） ・R4 9,223人（64.2%） ・R3 2,838人（65.4%） ※R3, R5は休館期間あり。	直接成果 障害者とその家族が伊豆潮風館の宿泊・休養サービスを低廉な価格で受けることができる。 【直接成果】 ①宿泊者数 ②障害者及び介護者の割合 ③県内利用者の割合 ①R6 13,000人、R5 4,945人、R4 9,223人、R3 2,838人 ②R6 72.0%、R5 69.2%、R4 70.2%、R3 69.2% ③R6 65.0%、R5 60.4%、R4 59.1%、R3 58.5%	中間成果 伊豆潮風館の施設・接客・食事などのサービスについて多くの宿泊者が満足している。 【成果指標】 ・宿泊者数 ・障害者及び介護者の割合 ・県内利用者の割合	最終成果（将来像） 障害のある方が障害のない方と同じように気兼ねなく、余暇活動を楽しめることで、社会参加の促進を図り、障害者の福祉が増進する。

⑧事業実績（アウトプット）が成果（アウトカム）に結び付くことを示すロジック及び根拠	
○障害者施設である宿泊施設として、個々の障害に応じたきめ細かいサービスを提供することにより利用者の満足度が高まる。 ・車椅子使用者用客室や浴室の介助用リフト設備などハード面のバリアフリー対応。 ・障害に関する知識や経験が豊富なスタッフによる接客対応（大声を出したり歩き回ったりする知的障害者や精神障害者への対応など）。 （宿泊者同士も障害理解があるため、障害児連れの家族でも周囲の目を気にせず利用可能） ・利用者ニーズを踏まえたサービスの充実（設備備品の整備、イベント企画、食事など）を図ることにより、さらに満足度が高まる。 ○上記により利用者数が増加し、余暇活動を通じて障害者の社会参加が促進される。 <伊豆潮風館の運営上の課題> ・利用者数をコロナ以前の水準以上に増加させること。 ・特に県民である障害者とその御家族の利用割合を増やすこと。 ・経済情勢を踏まえ、次期指定管理委託に向けて利用料金の引き上げを検討する。	

⑨指標	R 6	R 7	R 8	R 9	⑩関連する5か年計画の主な取組等	
宿泊者数（人）	13,000	14,000	15,000	15,000	No. 分野別施策名	30 障害者の自立・生活支援
障害者及び介護者の割合（%）	72	73	75	75	主な取組	地域で暮らす障害者の支援体制の整備
県内利用者の割合（%）	65	70	75	75		

事業手法に係る自己検証				
検証項目		評価	評価に関する説明	
県費投入の 必要性	事業目的が730万県民や社会ニーズを的確に反映しているか。	○	県内の障害者手帳所持者数は年々増加しているが、障害者が気軽に宿泊できるホテル・旅館は少ない。特に、知的障害者や精神障害者に対応できる施設が少なく、当施設が県内の障害者の旅行・レクリエーションのニーズに応える役割は大きい。	
	市町村、民間等に委ねることができない事業か。	○	民間宿泊施設において、ハード面、ソフト面ともにバリアフリー化が進んでいるとは言えず、市町村、民間等が代替できる状況にない。	
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。 政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	どのような障害のある人でも安心して宿泊できる施設として、伊豆潮風館は利用者から高い評価を受けており、障害者の社会参加が図れることから、県として施設を保有していく必要がある。	
事業の 効率性	一般競争入札、指名競争入札、プロポーザル方式による契約のうち、一者応札となったものではないか。 競争性のない随意契約となったものはないか。	×	プロポーザル方式の結果、一者応札となったものである。	
	受益者負担は適切に設定されているか	○	原材料費の高騰を受けて令和5年度から食事を引き上げた。 昨今の人件費や物価の高騰などの状況を踏まえ、今後、宿泊料の見直しを検討していく。	
	使途が事業目的達成にあたり必要なものに限定されているか。	○	事業の実施に必要な経費のみが計上されている。	
	不用率が大きい場合、その理由は適切か。	—		
	既存事業との重複はないか。 国、県、市町村で同様な事業を実施し二重行政となっていないか。	○	障害者向けの保養施設を運営する事業であり、二重行政の問題はない。	
	コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	指定管理者において、食材等の適切量の発注や光熱費の縮減、利用者数に応じた従業員配置など、コスト削減・効率化の工夫をしている。	
事業の 有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	宿泊者数、障害者及び介護者の割合、県内利用者の割合を成果指標とする。	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	低廉な価格でハード面及びソフト面において障害者に配慮した適切なサービスを提供できる施設であり、指定管理者制度を導入していることで低コストでサービスを提供できている。	
	活動実績は見込に見合ったものであるか。	○	令和5年度の宿泊者は4,945人であり、当初見込みである5,100人の97.0%を達成した。	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	施設内のバリアフリー機能や障害者向けの備品は十分に利用され、快適なサービスを宿泊者に提供している。	
			総合評価	A
関連事業	関連する事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。（役割分担の具体的な内容を各事業の右欄に記載）			
	部局・課名	事業名	役割分担の内容	

E B P M 調 書 ロジックモデル（フローチャート）



5 か年計画との関連の整理

◆主な取組と事業との関係

関連する5か年計画の主な取組
地域で暮らす障害者の支援体制の整備

↑関連箇所に【A】と記載

ロジックモデルとの関係 (事業と主な取組の関係)
健全者と同様に障害者であっても旅行を楽しみ、休養する機会が平等に与えられるべきものである。障害者に配慮した施設の整備とサービスの提供を低廉な価格で提供することは地域で暮らす障害者の支援に寄与する。

◆施策指標と事業との関係

関連する5か年計画の 施策指標
現状値
目標値

↑関連箇所に【B】と記載

ロジックモデル内の数値目標
宿泊者数（うち障害者の割合）
↓
モデル内の数値目標が5か年計画の 施策指標もしくは施策に与える影響
多くの障害者が旅行を楽しみ、休養できることは地域で暮らす障害者のレクリエーション面での支援体制の整備につながる。

EBPM調書(有識者会議様式)

予算執行状況		当初予算額		補正予算額		最終現計予算額		執行額 (決算額)	執行率
		事業費	(うち一財)	事業費	(うち一財)	事業費	(うち一財)		
令和6年度	施設管理運営委託料	154,820	154,820	0	0	154,820	154,820		0.0%
令和5年度	施設管理運営委託料	157,727	157,727	0	0	157,727	157,727	150,051	95.1%
令和4年度	施設管理運営委託料	150,000	150,000	0	0	150,000	150,000	150,000	100.0%
令和3年度	施設管理運営委託料	150,000	150,000	0	0	150,000	150,000	150,000	100.0%
令和2年度	施設管理運営委託料	109,158	109,158	3,317	3,317	112,475	112,475	109,158	97.1%
	指定管理者選定費	137	137	0	0	137	137	87	63.5%

